別記様式第３号

学　位　論　文　要　旨

氏　名　　須　田　幸　次

題　目　情報の閲覧と発信を繰り返す学習での児童の模倣的な語・表現使用の抽出に関する研究

学位論文要旨（和文2,000字又は英文1,000語程度）

本研究では，閲覧と発信を繰り返す学習での児童の模倣による語や表現の使用は，語彙獲得や表現力向上等の学習機会となっている可能性があると考え，実際に児童が作成した文章をもとに模倣による語・表現使用について具体的に検討することを主な目的としている．分析対象とするデータは，友達に自分が読んだ図書の推薦メッセージを発信するシステム「LiBlog」を活用した実践により収集されたものである．「LiBlog」は，児童の読書活動を活性化し，さらに児童相互の情報交流による情報活用能力の育成を目的とするもので，小学校高学年の児童が閲覧と発信の活動を繰り返し行うことを想定して設計・開発されている．「LiBlog」では，児童が発信したメッセージだけでなく閲覧したメッセージのテキストデータも収集されており本研究での使用に適した稀少なデータとなっている．「LIBlog」を活用した実践は６月から翌年２月までの長期間におよんでいるが，児童は最後まで概ね意欲的に取り組んでおり本研究が目的とする分析をおこなえるデータが得られている．本研究では，まず，児童が閲覧した他の児童のメッセージで使用されている語を閲覧語，発信した自分自身のメッセージで使用した語を発信語とし，先行して閲覧語となりその後発信で初めて使用したため新たに発信語ともなった語を閲覧先行語として児童ごとに特定する．この閲覧先行語は児童が作成した文章から機械的に抽出できるが，模倣とはいえない語も含まれる．しかしながら，閲覧したメッセージに影響を受けた模倣よる語使用があるとすればそれらの語はこの閲覧先行語に含まれることから，模倣による語使用についてはこの閲覧先行語にしぼって検討することができる．本研究では閲覧先行語を形態素解析により付与される原形と品詞情報を組み合わせた形で特定する．ただし，閲覧先行語を意味のある語に限定して特定するため，品詞情報が助詞や記号等の語は除いた．「LiBlog」を活用した学習での閲覧先行語数は84名の参加児童全員で321あり，児童の違いを無視して語の重複を除くと135となっている．特徴的な例として①複数の児童間で連鎖的に使用している閲覧先行語，②複数の児童に提供された閲覧先行語，③複数の閲覧を得た閲覧先行語，④複数の発信で使用している閲覧先行語の具体的な使用状況を取り上げ，閲覧の影響を受けた模倣による語使用の可能性について検討した．その結果、閲覧先行語には模倣による使用と考えられる語が抽出されており，特徴的な閲覧先行語が模倣による語使用の検討に有用であることが示唆された．

模倣は意図的な学習等による意味が明確な語単位のものだけとは限らない．偶発的な学習等による意味を伴わない記号や助動詞を含んだ多様な形で表れることを想定する必要がある．

そこで，意図的な学習であるか偶発的であるかを問わない多様な形で捉えるため，閲覧で先行してその後に自分自身の発信メッセージで初めて使用された連続する文字列を閲覧先行表現として特定する．閲覧先行表現も閲覧先行語と同様に児童が作成した文章から機械的に抽出できるが，模倣による使用とは考えにくい表現が多数含まれていると予想される．

「LiBlog」を活用した学習での閲覧先行表現数は参加児童全員で284，児童の違いを無視して語の重複を除くと216となっている．閲覧先行表現では，特徴的な例として①閲覧先行語としての使用者数が多い表現，②全閲覧者のうち閲覧先行語として使用している人数の割合が大きい表現，③全使用者のうち閲覧先行表現である人数の割合が大きい表現，④その他の特徴的な閲覧先行表現の具体的な使用状況を取り上げ閲覧の影響を受けた模倣による表現使用の可能性を検討した．特徴的な閲覧先行表現には学習機会としての模倣と考えられる表現が抽出されており，閲覧先行表現が模倣による表現使用の検討に有用であることが示唆された．

閲覧先行語と閲覧先行表現ともに児童にとってそれほど難しい語・表現はなく，閲覧の影響があったとしても閲覧がきっかけなって既知の語・表現を想起したことによる使用が多いと考えられる．しかし，閲覧先行語・閲覧先行表現は学習機会となっている模倣による語・表現使用の具体的な検討に有用であることに加え，注視することで児童間に広がる学習活動への関心の高まりや学習目標の認識の深まりを把握できる可能性もあり，閲覧と発信を繰り返す学習での児童の学びを具体的に捉える方法の一つとして学校現場での利用価値は高いと考えている．

閲覧先行語・閲覧先行表現を適時適切な学習指導や支援に活用するためには，機械的かつ自動的な抽出機能の実装が必須であり、より的確な抽出を行うためには抽出方法の見直しも必要である．なお閲覧先行語・閲覧先行表現が真に模倣であるかどうかに関しては，さらなる検証が必要であり，偶然の一致が閲覧先行表現として抽出される割合との比較を行うことも必要であろう．

閲覧先行語・閲覧先行表現の提供と使用の関係による児童相互やメッセージ相互の依存関係の可視化等，今後に研究の範囲を広げていく予定である．また，模倣的な語・表現使用の抽出は，発信と閲覧を繰り返す学習における児童の発信ログに加え閲覧ログも分析に活用するという新たな着眼点を教師等に提示するものであり，学校での情報コミュニケーションにおける児童相互の学びを具体化する方法の一つとして教員支援システムなどへの応用が期待される．